

聾話学校 大笑い大会

(手話落語披露会)

本物の文化に触れる『芸術体験学習』として、今年度は『手話落語』に取り組みました。日本の伝統芸能である落語を手話も合わせて表現する『手話落語』は、聴覚障害のある人たちにも分かりやすく、みんなで一緒に「笑い」を楽しむことができます。

7月、福団治亭福壱さん、宇宙亭きららさんを講師にお招きし、手話落語を披露していただきました。初めて見るプロの手話落語にひきこまれ、みんなで大笑いし、楽しい時間を過ごすことができました。その後、子どもたちは発表に向けて、どんなネタ（内容）が良いのか考え、練習を重ねました。



そして、迎えた9月20日、手話落語の創設者である四代目桂福団治師匠をお招きし、手話落語を披露していただきました。師匠の名人芸は圧巻で、「本当にそばを食べているみたい。」と、師匠の表情や仕草に会場のみんなが魅了されました。

後半は『聾話学校大笑い大会』と銘打って、師匠方や保護者の皆さんを見守る中、小学部、中学部、高等部と順に芸を披露しました。

小学部低学年の子どもたちは扇子や手ぬぐいを使って「流しそうめん」「車」「お化粧」など、楽しく元気いっぱい表現しました。小学部高学年の子どもたちは「好きな餅は？金持ち！」「カレーはかれえ！」と冗談話をおもしろおかしくいきいきと表現しました。

中学部・高等部の生徒は小咄を体の向きや声色などを変えて役を演じ分け、間合いを工夫して笑いを取っていました。緊張しながらも、のびのびと表現し、笑いをかっさらった子どもたちです。



参加した保護者のみなさんから「かわいかった！」「おもしろかった！」「感動した！」という声があがり、最高に楽しい空間を共有することができました。プロのみなさんからも、弟子入りを薦められるほどで、たくさん褒めていただきました。

相手に伝わるように表現を工夫することの大切さや相手を楽しませるおもしろさがあることなど、手話落語を通してたくさん学ぶことができました。

